

Interface Discovery Datapipe

ソフトウェアのバージョン : 2.4

HP Performance Insight

ユーザーガイド

2007年6月



法律上の表示

保証

Hewlett-Packard は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。Hewlett-Packard は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

Hewlett-Packard 製品に適用される特定の保証条件の写しは、代理店または営業所で入手できます。

権利の制限

米国政府による利用、複製、情報開示は、DFARS 252.227-7013 「Rights in Technical Data and Computer Software」の条項 (c)(1)(ii) 号で定められた制限の対象となります。

Hewlett-Packard Company

米国

米国国防総省 (DOD) 以外の合衆国政府機関の権利については、FAR 52.227-19(c)(1,2) で規定されています。

著作権

© Copyright 2003 - 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company から事前に書面による許諾を得ることなく、無断で複写、複製、翻訳をしてはならない。マテリアルに記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。

商標

OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://www.managementsoftware.hp.com/>

これらの Web サイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

HP OpenView のオンラインソフトウェアサポートでは、お客さまが自己解決できるための方法をご提供しています。サポートサイトでは、お客さまのビジネスの運用に役立つ対話形式の技術サポートツールに手早く効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースを登録/トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポート契約を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア利用者とディスカッションする
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID のご登録は、次の URL で行ってください。

<http://managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

目次

1 概要	3
「ログの再インデックス」レポート	3
機能拡張および不具合の修正	4
追加情報の入手先	5
2 パッケージのインストール	7
円滑なインストールのためのガイドライン	7
パッケージマネージャの使用	8
パッケージの削除	9
3 データパイプの設定	11
再インデックス化のサポートを有効にする	11
インタフェース識別子の変更	12
複数ポーラーの設定	13
4 ポーリンググループとポーリングポリシー	17
ポーリンググループ	17
ポーリングポリシー	18

1 概要

Interface Discovery Datapipe は、SNMP の管理対象デバイス上のインタフェースを検出します。Interface Discovery Datapipe はインタフェースを検出するだけでなく、検出されたインタフェースの設定データも管理します。*ifIndex* の値が変更された場合にデータの継続性を確保するため、Interface Discovery Datapipe では以下のような代替の固定属性を使用することができます。

- *ifDescr*
- *ifName*
- *ifAlias*

次のレポートパックは、Interface Discovery Datapipe を利用して、インタフェースを検出し、設定情報を管理します。

- ATM Report Pack
- Cisco Ping Report Pack
- Executive Summaries Report Pack
- Frame Relay Report Pack
- Interface Reporting Report Pack
- MPLS VPN Report Pack
- NetFlow Interface Report Pack
- NetFlow Global View Report Pack

「ログの再インデックス」レポート

Interface Discovery Datapipe には、「ログの再インデックス」レポートが含まれています。このレポートは、パッケージをインストールすると OVPI アプリケーションサーバーに配布されます。ログの再インデックスには次の情報が含まれます。

- 各インタフェースの識別情報 (属性と値)
- レポートの日付と時刻
- 各インタフェースの MIB-2 *ifIndex* 値 (「現在のインデックス」列)
- 前のインデックス識別子 (存在する場合)
- 属性変更の数

以下に示すように、このレポートは既存のデバイスが再インデックス化されたり、新規デバイスが追加されたりした場合には必ず更新されます。

インタフェース検出データパイプ



ログの再インデックス

MIB2インタフェースインデックスレポートは、インタフェース再インデックスイベントのログを表示します。また、OVPIのインタフェース名の照合を監視するために使用できる情報も表示します。

供給されたインタフェースプロパティ
5月27日 (金) 18:19 - 5月27日 (金) 18:19

デバイス	インタフェース	イベント時刻	現在のインデックス	前のインデックス	変更数
hpcent.usa.hp.com	3	金 5 27 06:19 午後	3	No previous	1
hpcent.usa.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpcent.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpcent3.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpws1.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpksi.kobe.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpksi.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpksuj.kobe.hp.com	16777219	金 5 27 06:19 午後	16,777,219	No previous	1
hpksuj.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpksua.kobe.hp.com	4	金 5 27 06:19 午後	4	No previous	1
hpksua.kobe.hp.com	3	金 5 27 06:19 午後	3	No previous	1
hpksua.kobe.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpksua.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
tasc-kob.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1

機能拡張および不具合の修正

次の表に、Interface Discovery Datapipe に対して加えられた最近の拡張機能をまとめます。

バージョン	リリース日	機能拡張および修正点
1.0	2003 年 1 月	Sybase のサポート
1.1	2003 年 5 月	修正点
2.0	2004 年 4 月	OVPI オブジェクトマネージャのサポート。Oracle のサポート。
2.1	2004 年 11 月	Juniper .dis ファイルの追加
2.2	2005 年 6 月	修正点。
2.3	2006 年 5 月	修正点： <ul style="list-style-type: none"> QXCR1000282768 (ifAlias はインタフェース識別子として使用されていない場合でも IR で使用可能です)

バージョン	リリース日	機能拡張および修正点
2.4	2007年4月	<p>パーティションの保守 次のファイルに対する Sybase 15 ROW_COUNT の更新:</p> <ul style="list-style-type: none"> • post_collection_processing.sql <p>修正点:</p> <ul style="list-style-type: none"> • QXCR1000348557 (10G 速度のインタフェースのデバイスに対し正しい情報が収集されない。) • QXCR1000380493 (Oracle POST_COLLECTION_PROCESSING_P のカーソル変数が小さすぎる。) • QXCR1000393264 (データパイプが K_IFEntry_Disc を正しく更新しない。) <p>アップグレードパッケージ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • UPGRADE_IFEntry_Disc_Datapipe_to_24

追加情報の入手先

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- 『Interface Discovery Datapipe 2.4 ユーザーガイド』
- 『Interface Reporting ifEntry Datapipe 2.4 ユーザーガイド』
- 『Interface Reporting Report Pack 5.2 ユーザーガイド』
- OVPI Report Packs、CD-ROM リリースノート、2007年7月

中心となる製品である OVPI のマニュアルと、OVPI 上で動作するレポート機能および共有パッケージについてのマニュアルは、次の Web サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

OVPI のマニュアルは [1. Product] で [Performance Insight] を選択すると表示されます。レポートパックおよびデータパイプのユーザーガイドは、[Performance Insight Reporting Solutions] の下に一覧表示されます。マニュアルのエントリーは、そのマニュアルが Web に掲載された年および月を示します。マニュアルが改訂されて再度掲載されると、日付が変わります。改訂されたマニュアルはその都度掲載されるので、PDF ファイルと Web 版を比較して、新しいバージョンが掲載されている場合はダウンロードしてください。

2 パッケージのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- パッケージマネージャの使用
- リモートポラー用の追加手順
- パッケージの削除

Interface Discovery Datapipe のバージョン 2.4 では OVPI 5.2 以降が必要です。**Interface Discovery Datapipe** を使用するためのパッケージレベルの前提条件はありません。

円滑なインストールのためのガイドライン

レポートパック CD には、最新のレポートパック、データパイプ、および共有パッケージが含まれています。CD を挿入してパッケージ抽出プログラムを起動すると、CD のインストールスクリプトはすべてのパッケージをシステムの **Packages** ディレクトリに抽出します。抽出処理が終わると、インストールスクリプトは **Performance Insight** を起動し、パッケージマネージャを開始します。

抽出手順がすでに実行されている場合は、すべてのパッケージをインストールできます。**Performance Insight** を起動して、パッケージマネージャを開始し、画面の指示に従って **Interface Discovery Datapipe** をインストールしてください。パッケージマネージャを使用する前に、必要であればアップグレードパッケージを用意し、分散システムをご利用の場合はこのデータパイプを複数のサーバーにインストールします。

バージョン 2.4 へのアップグレード

このデータパイプの古いバージョンを使用している場合は、アップグレードパッケージをインストールしてバージョン 2.4 にアップグレードします。アップグレードパッケージをインストールすることで、好ましくない影響を回避できます。アップグレードパッケージをインストールした場合、現在のバージョンを削除してから、バージョン 2.4 をインストールし直すのと異なり、次の問題を回避できます。

- **IR ifEntry Datapipe** は保持されたままで、削除されません。
- インタフェース設定データは失われません。
- フラグが設定された収集をポーリングしていた場合は (フラグの設定されたインタフェースだけをポーリング)、ポーリングフラグを再準備する必要はありません。
- ポーリンググループ情報は失われません。
- 再度デバイスを適切なインタフェース識別子グループに割り当てる必要はありません。

分散システム

分散システムの場合、インストールはさらに複雑になります。ポーリングを実行するすべての OVPI サーバーにそれぞれ **Interface Discovery Datapipe** をインストールします。中央サーバーがポーリングを実行していない限り、中央サーバーに **Interface Discovery Datapipe** をインストールする必要はありません。

パッケージマネージャの使用

レコードパック CD を挿入し、指示手順に従ってパッケージを CD からお使いのシステムの **Packages** ディレクトリに抽出してください。Windows の場合、[メインメニュー] が自動的に開き、そこに指示手順が表示されます。UNIX の場合、**root** でログインし、CD が自動的にマウントされない場合は CD をマウントし、CD の最上位ディレクトリに移動して **./setup** コマンドを実行します。

抽出処理が終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを起動します。パッケージマネージャインストールウィザードが起動されていて現在実行中である場合は手順 4 から、そうでない場合は手順 1 から開始してください。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows NT: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: **root** で次のいずれかを実行します。

HP-UX: **sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop**

Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer stop**

- 3 [管理コンソール] からパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [よろこ] ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [インストール] をクリックします。デフォルトのインストール先ディレクトリを受け入れるか、必要に応じて別のディレクトリを指定します。
- 6 [次へ] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。OVPI ユーザー名とパスワードを入力します。
- 7 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 8 バージョン 2.3 をお使いの場合は、アップグレードパッケージのチェックボックスをクリックします。
UPGRADE_IFEntry_Disc_Datapipe_to_24
- 9 このパッケージを初めてインストールする場合は、このエントリーの横にあるチェックボックスをクリックします。

IFEntry_Disc_Datapipe 2.4

10 [次へ] をクリックします。[タイプの検出] ウィンドウが開きます。タイプの検出を実行するにはデフォルトを受け入れます。



Interface Discovery Datapipe には、ベンダー固有のタイプ検出ファイルが含まれています。これらのファイルは、適切な **index-by** グループをそれぞれのベンダーに属するデバイスに自動的に割り当てます。追加のデバイスタイプを代替インタフェース識別子に手動で割り当てる場合は、[タイプの検出] オプションを無効にします。パッケージをインストールできたら、ポリシー管理を使用してデバイスに適切な **index-by** グループを割り当てます。

11 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。

12 [インストール] をクリックします。[インストールの進捗状況] ウィンドウが開き、インストールが開始されます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。

13 [完了] をクリックします。

14 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer start
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer start
```

これで、Interface Discovery Datapipe がシステムにインストールされました。

パッケージの削除

Interface Discovery Datapipe をアンインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は root でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。
- 3 [管理コンソール] からパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 4 画面に表示されるパッケージの削除手順に従います。プロンプトが表示されたら、削除する **Interface Discovery Datapipe** を選択してください。アンインストールが完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 5 [完了] をクリックします。
- 6 OVPI Timer を再起動します。

3 データパイプの設定

この章では、以下の方法について説明します。

- 再インデックス化のサポートを有効にする
- インタフェース識別子の変更
- リモートポーラー用のポーリンググループおよびポーリングポリシーの設定

特定のデバイスに対するポーリングがすでに開始された後でそのデバイスのインタフェース識別子を変更した場合、変更後に収集されたデータは新しいインタフェース識別子を使用するため、変更前のデータと変更後のデータとは関連付けられません。このような事態を避けるには、データ収集が開始される前に、すべてのデバイスを目的の **index-by** グループに割り当ててください。

再インデックス化のサポートを有効にする

MIB-2 定義は **ifIndex** の固定値を保証するものではありません。インタフェースの追加または削除、ソフトウェアのアップグレード、またはシステムのリブートによっても、インタフェースの **ifIndex** 値が変わることがあります。このようなイベントが発生し、一意の固定識別子が使用されていない場合、再インデックス化が行われる前に収集されたデータはインタフェースに関連付けられません。

Interface Discovery Datapipe では以下の代替識別子を使用できます。

- **ifDescr** — **index-by-ifDescr** ポーリンググループでサポート
- **ifName** — **index-by-ifName** ポーリンググループでサポート
- **ifAlias** — **index-by-ifAlias** ポーリンググループでサポート

再インデックス化を有効にするには、デバイスで一意の、固定された代替識別子 (1 つだけの代替識別子) を選択します。**Interface Discovery Datapipe** には、特定のタイプのデバイスを自動的に代替インタフェース識別子に割り当てる、ベンダー固有のタイプ検出ファイルが含まれていることに留意してください。このため、選択処理の一部はすでに完了しています。**index-by-ifIndex** から他のグループにデバイスを移動している場合、識別子が更新され、**ifIndex** は新しい識別子に置き換えられます。

次の表に、デバイスタイプと事前に割り当てられた識別子を示します。

Device Type	OVPI タイプ検出によって割り当てられた識別子
Cisco Catalyst スイッチ	ifName
Cisco ルーター	ifDescr
HP ProCurve スイッチ (800T を除く)	ifName

Interface Discovery Datapipe は、ベンダー固有のタイプ検出ファイルを `DPIPE_HOME/scripts` ディレクトリにインストールします。`index-by` グループに割り当て済みのデバイスがすでにある場合、またはデバイスを手動で割り当ててる場合は、以下の手順に従います。

- 1 タイプ検出を無効にします。
- 2 `scripts` ディレクトリから `.dis` ファイルを削除します。
- 3 デバイスを手動で割り当てます。

インタフェース識別子の変更

`index-by-ifIndex` グループはデフォルトのグループです。`GENMIB2IF_Datapipe` グループに属しており、`index-by-ifAlias`、`index-by-ifDescr`、または `index-by-ifName` には属さないすべてのデバイスが自動的にこのグループに含まれます。

インタフェース識別子の変更方法

インタフェース識別子を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 各デバイスタイプごとに、インタフェース識別子を選択します。
- 2 そのタイプの各デバイスを適切な `index-by` グループに割り当てます。
 - a [管理コンソール] を起動します。
 - b [ポーリングポリシー] アイコンをクリックします。[ポーリングポリシーの管理] ウィンドウが開きます。
 - c [編集] > [ポーリンググループ] の順に選択します。
 - d 上のペインで [同じタイプのすべてのノード] を選択し、下のペインで必要な `index-by` グループを選択します。[編集] をクリックします。
 - e このグループに割り当てられるノードを左側のペインで選択し、[>>] をクリックして右のグループに移動します。完了したら [OK] をクリックします。
- 3 必要に応じて、その他のデバイスタイプおよび `index-by` グループについても上記の手順を繰り返します。
- 4 この手順はオプションです。タイプ検出によって配置されるポーリンググループとは別のポーリンググループにデバイスを割り当てた場合、`DPIPE_HOME/scripts` ディレクトリから次の Cisco または HP タイプ検出ファイルを削除してください。
 - `Cisco_device_by_ifName.dis`
 - `Cisco_router_by_ifDescr.dis`
 - `HP_ProCurve_by_ifName.dis`

重複識別子のメッセージ

デバイスを `index-by` グループに割り当てると、識別子が一意でない場合は、識別子が重複していることを示す次のようなメッセージが Trend ログに挿入されます。

```
bcp_gateway, ,WARNING,1984,2076,0,"the object [testhost.test.hp.com_AT3/0] is duplicate for data table rv_ifentry_disc_ifname"
```


複数ポーラーの設定

複数のリモートポーラーで **Interface Discovery Datapipe** を使用している場合は、追加手順が必要です。標準のインストールでは、1つのリモートポーラーに対して4つのグループと8つのポーリングポリシーが設定されます。各リモートポーラーごとに独自のポーリンググループとポーリングポリシーが必要です。

データパイプパッケージには、2つのポーラー用のグループおよび収集ポリシーファイルが含まれています。1つのデータベースに対して3つ以上のポーラーを設定する必要がある場合には、グループファイルとポリシーの追加セットを生成する必要があります。

- 1 システムにログインします。UNIXの場合は、**root** でログインします。
- 2 **Interface Discovery Datapipe** パッケージのディレクトリに移動します。

UNIX:

```
$DPIPE_HOME/packages/IFEntry_Disc_Datapipe/IFEntry_Disc_Datapipe.ap
```

Windows:

```
%DPIPE_HOME%\packages\IFEntry_Disc_Datapipe\IFEntry_Disc_Datapipe.ap
```

- 3 次のコマンドを実行します。

```
trend_proc -f create_groups_multi_pollers.pro
```

- 4 次のコマンドを実行します。

```
collection_manager -import -file IFEntry_Disc_Collection_Policies_multi_pollers
```

- 5 ポーリングポリシーの管理を起動し、**[編集]** > **[データパイプのインストール]** の順に選択します。
- 6 **[作成 ...]** をクリックして、新しいポーラーを作成します。各ポーラーのホスト名と IP アドレス (任意) を追加し、**[OK]** をクリックします。
- 7 すべてのポーラーを追加したら、**[閉じる]** をクリックして終了します。
- 8 左のパネルの **[すべて]** をクリックしてすべてのポーリングポリシーを表示します。
- 9 元の **Flagged Discovery** ポリシー (名前の末尾に **_p1** または **_p2** がないもの) を削除します。
- 10 新しい **Flagged Discovery** ポリシー (名前の末尾に **_p1** または **_p2** が付くもの) をダブルクリックして変更します。
 - a poller1 ポリシーの **[ポーリングの割り当て先]** 設定を手順 8 で設定した poller1 のホスト名に変更します。
 - b poller2 ポリシーの **[ポーリングの割り当て先]** 設定を手順 8 で設定した poller2 のホスト名に変更します。

この時点で、15分単位のポリシーは下表のポリシーのようになります。

ポーリングポリシー	収集されるデータのテーブル エイリアス名	収集元のグループ名	ポーリング元
Flagged_ifName_Disc_p1	x_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller1	poller1 のホスト名
Flagged_ifAlias_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	discover-by-ifAlias-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifDescr_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifIndex_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifName_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifDescr_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifIndex_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifName_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名

11 既存の All Discovery ポリシーをダブルクリックして変更します。

- a [データの収集元] オプションについては、[タイプとビューとの組み合わせ] を選択します。
- b [ポーリングするグループの選択] の [作成 ...] ボタンをクリックし、index-by Type グループと poller1 ビューグループの間に AND (かつ) を作成します。
- c [ポーリングの割り当て先] 設定を poller1 のホスト名に変更します。

12 [ファイル] > [ポーリングポリシーの作成 ...] の順に選択して新しい All Discovery ポリシーを追加します。

- a poller1 ポリシーと同様の 4 つの新しいポリシーを作成します。ただし、[ポーリングするグループの選択] は poller2 グループと等しくなるようにします。
- b [データの収集元] を [タイプとビューとの組み合わせ] に変更します。
- c [ポーリングするグループの選択] の [作成 ...] ボタンをクリックし、index-by Type グループと poller2 ビューグループの間に AND (かつ) を作成します。
- d [ポーリングの割り当て先] 設定を poller2 のホスト名に設定します。

この時点で、日単位のポリシーは下表のポリシーのようになります。

ポーリングポリシー	収集されるデータのテーブル エイリアス名	収集元のグループ名	ポーリング元
All_ifIndex_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
All_ifName_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名
All_ifAlias_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias-poller2	poller2 のホスト名
All_ifDescr_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
All_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias-poller1	poller1 のホスト名

ポーリングポリシー	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名	ポーリング元
All_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr-poller1	poller1 のホスト名
All_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex-poller1	poller1 のホスト名
All_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName-poller1	poller1 のホスト名

- 13 **[編集]>[ポーリンググループ]**の順に選択します。上のペインで**[同じビュー内にあるすべてのノード]**を選択し、下のペインで **poller1** を選択します。**poller1** によって収集されるノードを [poller1] ビューに割り当てます。
- 14 **[編集]>[ポーリンググループ]**の順に選択します。上のペインで**[同じビュー内にあるすべてのノード]**を選択し、下のペインで **poller2** を選択します。**poller2** によって収集されるノードを [poller2] ビューに割り当てます。

4 ポーリンググループとポーリングポリシー

Interface Discovery Datapipe の標準インストールでは、5 つのポーリンググループと日単位および 15 分単位のポーリングポリシーの組み合わせが 1 つ有効になります。複数ポーラーのサポートを有効にする必要がない限り、デフォルトのポーリングポリシーを変更する必要はありません。

ポーリンググループ

Interface Discovery Datapipe のインストールによって有効になったポーリンググループを次の表に示します。

名前	説明
GENMIB2IF_Datapipe	MIB-2 をサポートするすべてのノードの最上位レベルのグループです。
index-by-ifAlias	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifAlias を使用するすべてのノードを含みます。
index-by-ifDescr	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifDescr を使用するすべてのノードを含みます。
index-by-ifIndex	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。 index-by-ifAlias、index-by-ifDescr、または index-by-ifName グループに属さないすべてのデバイスがこのグループに含まれます。デバイスが別のグループに割り当てられない限り、デバイスのインタフェース識別子のデフォルト値は ifIndex です。 このグループの編集は必要ありません。
index-by-ifName	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifName を使用するすべてのノードを含みます。

4 つのグループはすべて GENMIB2IF_Datapipe に基づいています。index-by-ifIndex グループは、1 時間に 1 回自動的に生成されます。このグループは、デバイスが新しいグループに再度割り当てられても、index-by-ifIndex からただちに消滅することはありません。ただし、その後、デバイスは新しい index-by グループからポーリングされます。

上記の表の 5 つのポーリンググループは、どれもポーリングポリシーマネージャを使用して参照および変更することができます。ポーリンググループを参照または変更するには、[ポーリングポリシーの管理]を開き、[編集]>[ポーリンググループ]>[同じタイプのすべてのノード]の順に選択します。

ポーリングポリシー

Interface Discovery Datapipe の標準のインストールでは、以下のポーリングポリシーが有効になります。

- 4 つの日単位のポリシー、各 index-by グループに 1 つずつ
- 4 つの 15 分単位のポリシー、各 index-by グループに 1 つずつ

日単位のポリシー

日単位のポリシーは、MIB-2 をサポートするすべてのデバイスのすべてのインタフェースを検出(その後、再検出)します。日単位のポリシーを以下の表に示します。

ポリシー名	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名
All_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias
All_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr
All_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex
All_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName

15 分単位のポリシー

15 分単位のポリシーは、フラグの設定されたデバイスについてのみすべてのインタフェースを検出します。15 分単位のポリシーを以下の表に示します。

ポリシー名	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名
Flagged_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	discover-by-ifAlias
Flagged_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr
Flagged_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex
Flagged_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName

Interface Discovery Datapipe は、コア管理対象ノードテーブル `ksi_managed_node` に `ifEntry_discover_flag` という名前のフラグ列を追加します。特定のノードに対する再インデックス化イベントが検出された場合、またはシステムに新しいノードが追加された場合は、検出フラグが設定され、次のポーリング周期中にそのノードのインタフェースが再検出されます。